



国労東北自動車支部

発 責 北山修司
編 責 教 宣 部
NO,49
2014.12 6

国労加入
で職場を
変えよう

国労フクシマ交流・視察学習会レポート

11月29日(土)～30日(日)国労本部主催による「第2回国労フクシマ交流・視察学習会」が開催され、東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地を視察する中、改めて原子力事故の深い傷跡が今なお地域・住民を苦しめ復興が進んでいない実態が浮き彫りとなった。

当日は、ジェアールバス仙台支店のバスをチャーターし、仙台駅東口を9時50分に出発。福島駅西口で合流し、全国から集まった42名の視察団を乗せ被災地を目指し出発。途中「道の駅川俣」で昼食をとり12時50分ごろ飯館村に入った。



瓦礫の向こうに福島第一原発がある



全国から集まった視察団メンバー

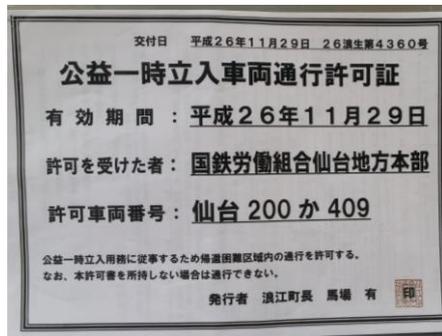


時間は止まったまま



橋桁のずれた常磐線

だ。今回、視察に初めて参加したが「完全にコントロール」されていたいどころか3.11から時計は止まったままだ。原発の再稼働はもとより原発は絶対に認められないということを強く感じた。



東京電力福島第一原発のある大熊町に入ると線量計は一気に上がり7mSvに。この日は無風状態だったが海からの風があれば12mSvになるというから驚き

被災した大倉(元)委員長宅

道の脇をはじめ至る所に青い袋や黒い袋が並べられている。除染現場で出た汚染土壌が入っており青色が3年、黒色が5年保管らしい。原ノ町を経由して常磐線沿いを南下し、浪江町に入ると線量計は1.4mSvに。町は作業員以外、誰もいない。帰還困難区域の双葉町に入ると警察官が至る所に立ちおり、警戒に当たっているのが目立つ。また、沿道にあった街の看板「原子力の明るい・未来のエネルギー」の文字は空しく皮肉に思えた。